

特別プログラム これからの高齢者医療とIT

【コーディネーター】株式会社ワイズマン

【主旨】

今日、私たちの日常生活のさまざまな分野でコンピュータシステムが活用されています。ビジネスにおいてはその情報の処理や伝達の迅速性、正確性、また記録保存と検索の簡便さ、容易なデータ分析などのITの特性はその企業の経営効率向上に有用なだけでなく、顧客への提案力も含めたサービス向上や信頼関係を生む基盤となっています。

医療においては診療情報も患者個人によってさまざまであり、かつ情報を共有する部門・職員も多岐に渡ります。それ故、上で述べたITの特性が一層必要であり、有用であると私たちは考えています。

昨年は院内全体を対象にどのような目標を描いてITを導入しその後運用されてきているかの事例と、近年導入し運用を試みておられる事例をそれぞれお話いただきましたが、今回はそれぞれテーマを絞り、理念・目標と実践についてお話しいただく予定です。

座長には九州大学大学院教授の信友浩一先生をお迎えし、事例発表では博愛記念病院理事長の武久洋三氏（日本療養病床協会副会長）、ミタニ藤田病院院長の藤田俊和氏、尾洲病院事務長の村松秀彦氏にお話いただきます。

高齢者医療を担う病院での電子カルテ、オーダリングシステムなどによる、情報管理・活用でチーム医療や組織運営（場合によっては連携）に有効であった事例など、今後の療養病床へのIT導入の参考としていただきたいと思います。このプログラムを企画いたしました。

多くの皆様の御参加をお待ちしております。

【プログラム 9月7日(木)・16:00～18:30】

16:00～16:05 開会

16:05～16:15 はじめに

〔座長〕信友 浩一 氏（九州大学大学院 教授）

16:15～17:45 1. 発表

「当院におけるシステム運用の効果と課題」

「療養病床における経営課題とIT化への期待」

〔講師〕武久 洋三 氏（博愛記念病院 理事長）

「療養病床の業務上課題とITへの取り組み」

～看護、リハビリテーションの現場より

〔講師〕藤田 俊和 氏（ミタニ藤田病院 院長）

「療養病床へのIT導入の効果と分析ツールの事例」

〔講師〕村松 秀彦 氏（尾洲病院 事務長）

17:50～18:25 2. ディスカッション

「医療への要求にIT化で応えられるか」

18:25～18:30 3. まとめ

18:30 閉会